

ローマへの旅⑥ ーアグリッパ王の前で

使徒の働き 26:1-32

2017,12,10 HKJCF

概観

序) ①カイザリヤでの最後の裁判

②サンヘドリン/ローマ総督/王

③エルサレム/カイザリヤ/ローマ

Iパウロの回心と召命 V1-16

II復活と神の国の実現 V17-23

IIIパウロの確信 V24-32

IV結論・適用・祈り

Iパウロの回心と召命

- 1、タルソ/エルサレム/パリサイ派
 - 2、神様の約束/希望/死者の復活
 - 3、迫害/復活の主との出会い/使命
- ⇒①アグリッパの聖書知識②イスラエルの回復の約束と希望③中心的信仰としての復活④キリストとの出会い⑤これらの予審がローマへの準備
「人生は出会いで決まる」

M.ブーバー

II復活と神の国の実現

- 1、パウロの福音理解
 - ①暗闇から光 聖書の真理
 - ②サタンから神の支配 み国の実現
 - ③罪の赦しとみ国の相続 救いの目的
 - 2、信仰義認と神の国の統合
 - 3、天からの啓示と聖書の預言
- ⇒①パウロは個人的回心・教会論・神の国の福音を統合した②それは復活の主による③神の言/キリストによる救い/聖霊による教会 「神の栄光の神学」 カルバン
ローマ11:31-36

IIIパウロの確信

- 1、総督フェストの反応：知的反発
 - 2、アグリッパ王の反応：プライド
 - 3、パウロの確信：①全人類の墮罪②自己救済の虚しさ③福音の救いの力
- ローマ1:16-17,ローマ3:9,21-26
- ⇒①パウロの目にはローマ総督も王も罪びとであり②復活のキリストへの信仰抜きには絶望③ローマ帝国もユダヤ国家も神の国ではなく、神様の前には滅びるべき地上国家

参)「神の国」アウグスティヌス

IV結論・適用・祈り

- 1、パウロの回心：復活のキリスト
 - 2、パウロの福音：信仰義認/神の国
 - 3、パウロの宣教：ローマ世界へ
- ⇒①エルサレムとカイザリヤで最高の宣教:足の塵を払う時 ルカ10:8-11
②時が満ちてローマへ ③キリスト教がH.G.R.に直面、ヨーロッパを経て世界へ宣教、そのための使徒パウロ
パウロ→アウグスチヌス→ルター・カルバン→世界宣教